

テランガの国 セネガル

1. はじめまして

ボンジュール！（こんにちは）JICA 海外協力隊 2022 年度 3 次隊、数学教育で活動している藤戸拓実です。

セネガル共和国（以下セネガル）のケベメールという街のケベメール視学官事務所（日本でいうところの教育委員会）に所属し、小学校と中学校を巡回しながら、子どもたちに算数・数学を教える活動をしています。

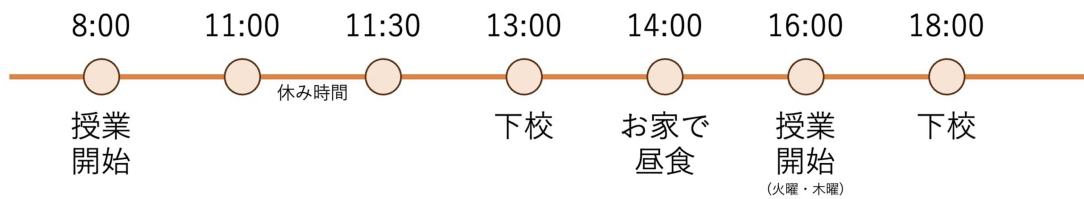
2. セネガル共和国について

アフリカの最西端に位置し、モーリタニア、マリ、ギニア、ギニアビサウと国境を接しています。1960 年以前のフランス植民地時代の影響で、現在でもフランス語が公用語となっており、公教育や公文書などの場においてはフランス語が使用されています。一方、現地語として、ウォロフ語、セレール語といった現地語が日常的には使用されており、地域によって話す言語が異なるのも特徴です（*1）。宗教は、国民の約 97%がイスラム教（*2）であり、至る所にモスクが配置されています。お祈りの時間は 1 日 5 回で、時間を知らせるために、モスクからアザーン（イスラム教における礼拝時間の呼びかけのこと）が響き渡ります。

3. セネガルの学校と活動

日本と同じく 3 学期制で、10 月から新学期が始まり、6 月末に学年末となっています。子どもたちはとても人懐っこく、外国人の私に積極的に話しかけてくれたり、絵を描いてくれたりします。私の活動は、学校を巡回しながら算数・数学の向上に努める活動を行うことが目的です。九九や四則計算に苦手意識を持つ児童が多いため、現在は授業で 5 分間の暗唱の機会を創出したりフラッシュカード（頭の中で瞬時に簡単な計算ができるように、四則計算が書いてあるカード）を取りいれたりしています。うまくいくこともあればそうでないこともあります。日本とは異なる文化や価値観がある任地において、人の考え方を变えることの難しさに直面し、どのようにしたらよりよい方向に進められるか、どのようにアプローチをしたら受け入れてもらえるか等、様々な葛藤を繰り返しています。そのために「信頼関係」を大切にし、現地に寄り添いながら協力して進めていくことに重きをおくように心がけています。

【活動先のある小学生の1日】



4. テランガ

「テランガ」という言葉を知っていますか。セネガルでは困った時は当然のように助け合うという、ホスピタリティ・おもてなしに当たるテランガの精神が根付いています。セネガルで一番いいところだと感じるのはこの文化です。食事の際に、人が尋ねてくると、一緒に食べていきなさいと誘うことが多くあります。純粹に分ち合う関係性が、セネガルの国民性や治安の良さにつながっていると感じます。

しかしながら、貧困に起因する児童労働をしている子どもたちを路上で見かけることもあります。お金を頂戴と言ってくる子どもも存在し、お金を渡してしまえば、その子は嬉しいしその日暮らしはできるかもしれませんが、しかし、長期的な貧困の解決にはならないという葛藤があります。このような社会問題に対して、私のできることは微力かもしれませんが、現地の教育に貢献し、子どもたちの将来を少しでも変えられる力になりたいと思います。

参考文献

*1 外務省 (2024). 「国・地域：セネガル共和国、基礎データ」『外務省ホームページ』2024年4月14日アクセス

<<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/senegal/data.html#01>>

*2 U. S. DEPARTMENT of STATE (2022). SENEGAL 2022 International religious freedom report. Retrieved from

<https://www.state.gov/wp-content/uploads/2023/05/441219-SENEGAL-2022-INTERNATIONAL-RELIGIOUS-FREEDOM-REPORT.pdf>

氏名：藤戸 拓実

職種：数学教育

派遣国：セネガル

配属先：ケベメール県視学官事務所

隊次：2022年（令和4年）度3次隊

派遣期間：2023.1～2025.1



①任地にあるたくさんのバオバブの木々。アフリカ感が感じられます。



②授業風景（活動先の小学校にて算数の図形の単元の授業をしている場面です。



③アルドワーズ（セネガルの学校では、授業中ノートも使用しますが、小黒板（アルドワーズ）を使って、計算や図、新しく学習した単語などを小黒板に書きます。）



④セネガルの食事（日本と同じくお米文化です。大皿に盛り付けて囲んで食べるのが一般的です。）